

第4回人吉市立学校のあり方検討委員会

日時：令和8年5月8日（金） 午後2時から
会場：人吉市保健センター2階 多目的室

～ 次 第 ～

委嘱状交付

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 人吉市教育委員会あいさつ
- 4 議事
 - (1) 前回までの振り返り
 - (2) 前回までの質疑等に対する回答（説明）
 - ア 「義務教育学校」と「小中一貫校」
義務教育学校を設置する場合のパターン
 - イ 複式学級のメリットとデメリット
 - ウ あさぎり町立あさぎり中学校開校時の状況
 - (3) 児童生徒数・学級数・教職員数の直近3カ年推移と人口推計
 - (4) 意見交換
 - (5) 質疑応答
- 5 本日の総括（委員長）
- 6 その他
 - (1) 令和8年度の委員会開催等スケジュール
- 7 閉会

1. 前回までの振り返り

【第1回:令和7年7月24日(木) 15時開会 16時10分閉会】

事務局から、人吉市立学校の現状、人吉市全体の児童生徒数・学級数の推移、学校施設の現状、教育の現状と課題等について説明を行いました。

- 生まれてくる子どもに関する対策も必要ではないか。
- 広域の可能性も視野に入れるべきではないか。
- 校区ごとにグループワークを行ってはどうか。

【第2回:令和7年11月4日(火) 14時開会 16時10分閉会】

地域の実情を踏まえ、学校教育の質の維持・向上を図るため、本市の学校はどうあるべきかをテーマに、中学校区ごと(3班)に分かれてワークショップ形式で話し合いを行いました。

- テーマ① 地域(校区)の子どもの状況は?
 - 子ども会がなくなった町内も多い。地域との関わりが減少している。
 - 学校再編となれば地域の伝統等の伝承に影響がでるのも心配される。
 - 外で遊ぶ子どもが少なくなっている。
- テーマ② 学校規模・学校配置はどうあってほしいか?
 - 小中一貫教育にしてはどうか。
 - 各学年2クラスあれば適切な学校運営ができるのではないか。
 - クラス替え可能な規模が理想。
 - 市内を2つのエリアに再編してはどうか。
 - 新しい学校を建てる必要があるのではないか。

【第3回:令和8年2月20日(金) 14時30分開会 16時10分閉会】

人吉市の学校の適正規模を考えるため、3班に分かれてワークショップ形式で話し合いを行いました。

- 最終的には「教育の質をどうやって保証するのか」ではないか。
- 中学校を1校にし、小学校は各地域に残した方がいい。
- 中学校は川上と川下に1校ずつが良いのではないか。
- 複式学級にはデメリットだけでなく、メリットもあるのでは。
- 小学校は人数だけで統合すると通学が厳しくなる。
- 3つの義務教育学校をつくる。
- 学校選択制の導入。校区について柔軟な考えも必要。

等の意見がありました。

2. 前回までの質疑等に対する回答(説明)

ア『義務教育学校』と『小中一貫校』

義務教育学校と小中一貫校の最大の違いは、制度上「1つの学校」か「別々の学校が連携している」かという点が挙げられます。

義務教育学校も小中一貫校も、「義務教育の9年間を一貫した目線でとらえ、小中の先生方が連携して子どもたちを育てる。」という目的は同じです。

<義務教育学校とは…>

- ・2016年に学校の種類の1つとして制度化。(比較的新しい学校のかたち)
- ・1人の校長と1つの教員組織が9年間の教育を一貫して担当します。
- ・従来の「6・3制」に縛られず、「4・3・2制」や「5・4制」など、柔軟な学年区分を設定できます。
- ・入学式は1年制(小1)のみ、卒業は9年制(中3)の修了時のみです。
- ・教員は原則として、小学校と中学校の両方の教員免許を併せ持っている必要があります。(現在はどちらか一方でも可の経過措置あり)
- ・通学区域が決められているため、通学区域にない場合は、校区外や区域外等が認められない限り通うことはできません。

<小中一貫校とは…>

- ・従来の「小学校」と「中学校」が別々の組織として存在しつつ、連携して教育を行います。
- ・校長や教員組織もそれぞれの学校に存在します。
- ・基本的には、「6・3制」の枠組みの中でカリキュラムを連携させます。
- ・小学校6年を終えた段階で卒業し、中学校へ入学します。
- ・教員は、それぞれの校種の免許をもっていれば活動できます。

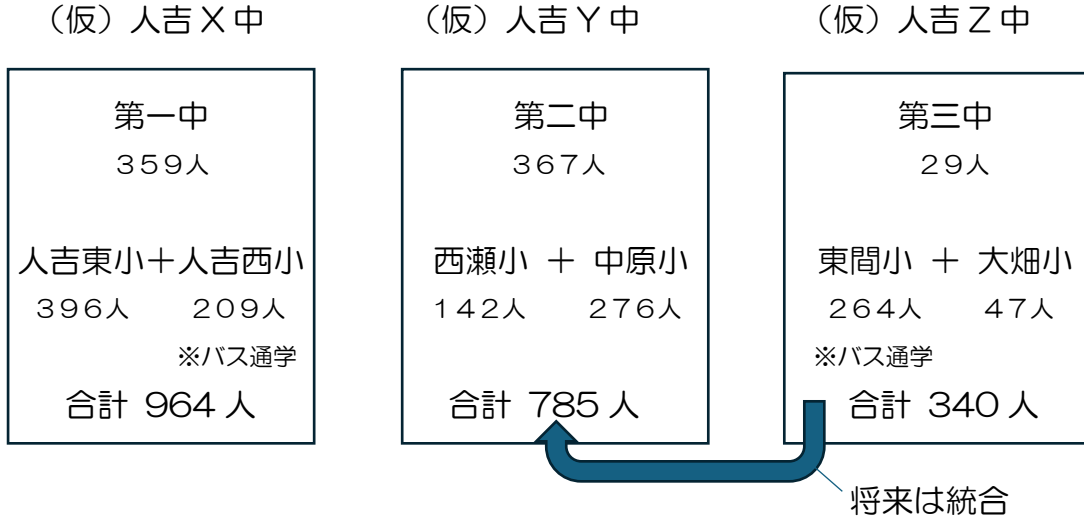
9年間の一貫教育で「※中1ギャップ」を解消し、特色あるカリキュラムや小学校高学年で教科担任制を導入しやすく、中学校教員が小学生に教えることで、授業の質が向上する。異学年交流で成長を促すなどのメリットがあります。一方、9年間同じメンバーで過ごすため、友人関係のトラブルが長期化する。小中学校の連携業務が多いため、教員の業務量が増えるなどのデメリットがあります。 ※中1ギャップとは・・

小学校から中学校への進学時に、環境や学習・生活スタイルの急激な変化になじまず、勉強の遅れ、不登校、いじめの増加など心身にストレスを抱えてしまう現象。

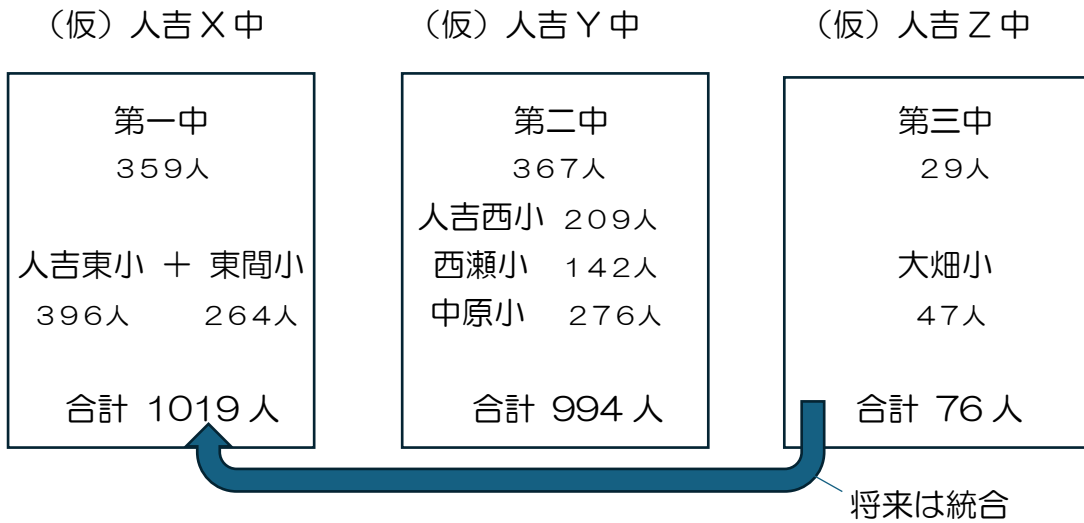
◎ 義務教育学校を設置する場合のパターン

※現在の児童生徒数から

【パターンA】



【パターンB】



【パターンC】



イ 複式学級のメリットとデメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数による細やかな指導ができる。 ○ 一人一人の活動の機会が増える。 ○ 一人一人に目が届きやすい。 ○ 様々な体験活動ができやすい。 ○ 教材教具が十分に準備できる。 ○ 下級生は、上級生の授業内容を知ることができる。 ○ 上級生は、下級生に教えることで復習の機会となり、学習内容の定着につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 直間方式での授業により、授業時間が制約される。 ● AB方式を選択する場合は、転出入の対応など、様々な課題がある。 ● 団体競技や合唱・合奏など、できない授業(教育活動)が出てくる。 ● 多様な考えに出会う機会が少なくなる。 ● 競争心や多様性が高まらない。 ● 教師の教材研究や教材等の準備が2学年分となるため、負担が大きくなるとともに、質の低下につながる可能性がある。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異学年交流により、自立心や社会性が育成される。 ○ 上級生が下級生の面倒等を見ることにより、自己有用感が高まる。 ○ 一人一人の役割が明確になることで、責任感の高まりと確実な活動につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間関係が固定化される。 ● 一人一人に目が届きすぎることによる甘えや疲労の増大につながる。 ● 男女比の偏りが生まれる場合がある。 ● 親や地域との関係性が児童生徒の関係性に影響されやすい。 ● 一人一人の役割が多く、疲弊につながる場合がある。
担任等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人を深く理解できる。 ○ 学級関係事務が少なくなる場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2学年分の教材研究や授業の準備が必要となる。 ● 複式学級の場合は、学年の組み方により教科が異なる場合があり、指導が厳しくなる。

		<p>(2・3年の場合：生活科と理科・社会・総合的な学習の時間、4・5年の場合：家庭科の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人当たりの校務分掌が多くなる。 ● 担任との人間関係が崩れると修復が難しい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の連携が図られやすい。 ○ 地域とのつながりが強く、子どもたちを地域で育てる意識が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の負担が大きくなる(PTA活動等)

※ 第1学年の児童数と当該学年に引き続く1の学年の児童数の合計が8人以下である場合➡複式学級

(当該学年の引き続く1の学年が第2学年以外の学年である場合は、第1学年又は当該学年に引き続く1の学年のいずれかの児童数が4人を超える場合は複式学級にはならない)

※ 小学校の引き続く2の学年(第1学年を除く)の児童数の合計が16人以下である場合➡複式学級

(当該引き続く2の学年のいずれかの児童数が8人を超える場合は複式学級にはならない)

※ 中学校は、原則、隣接する2学年(第1・2学年または第2・3学年)の生徒数の合計が4人以下の場合➡複式学級 (全国は8人以下)

ウ あさぎり町立あさぎり中学校開校時の状況

1 登下校関係

- スクールバス利用生徒の発生や自転車通学生徒の増加
 - ➡ ・スクールバスの運行時間が決まっているため、急な対応ができなかった（生徒指導や学年集会等）
 - ・通学時間が長くなった（朝早く起きなければならない）
 - ・スクールバスに遅れたことによる送迎の必要性
 - ・自転車通学者の送迎の増加（特に雨天時）
 - ・自転車のマナーや下校時の大混雑に対する地域の人からの苦情
 - ・交通事故が増えた印象はない

2 生徒に関すること

- 生徒同士の関係性
 - ➡ ・統合前から5校合同で何度も体験入学をしたり、夏休みにリーダー研修会をしたりしていたため、大人が考えるよりスムーズにスタートできた
 - ・統合前から、統合を楽しみにしている生徒が多い印象だった
 - ・小規模の学校の生徒が委縮していた印象はない
 - ・生徒数が増えることによる活気や盛り上がりが生まれた
 - ・開校時の3年生が、あさぎり中をよい学校にしようという一期生としての誇りをもっていた
 - ・いじめや不登校が発生した際、統合を原因にする保護者がいた
 - ・旧5中学校ごとの生徒指導や校則の違いのすり合わせに苦慮した
 - ・校区が広くなり、家庭環境や地域の把握が難しかった
 - ・開校1年目の小学校との引継ぎができなかった

○ 教育活動の状況

- ➡ ・部活動で好成績を残した（開校2年目で陸上リレー全国大会5位入賞など）
- ・学習面での切磋琢磨が生まれた
- ・集団で行う行事（合唱コンクール、体育大会、文化祭など）において、生徒の学びが充実した
- ・単独ではできなかったことが、統合することによってできるようになった

3 職員に関すること

○ 職員の配置

- ➡ ・学級数の増加により職員数が増えたため、各教科の教員を確保できた

○ 職員の意識

- ➡ ・開校元年として、自分たちでよい学校にするとといった意識の高まりを感じた

4 PTA 関係

○ PTA 役員

- ➡ ・PTA 会長は輪番制（旧5校の保護者）でスタートした
- ・会長以外の役員については、地域の偏りがないように配慮した

5 その他

○ 準備

- ➡ ・3年前から準備委員会を立ち上げて、準備を進めていた。
- ・開校元年には全員が同じ制服になるように計画的に進めてあった

○ 施設・設備

- ➡ ・1校になったことで、資源等を集中することができた
- ・安全面も考慮した周辺道路の整備が行われた
- ・全部活動が専用の場所で活動することができた（調整がいらぬい）

3. 児童生徒数・学級数・教職員数の直近3カ年推移

【人吉東小学校】

令和6年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	64	2	6	34
2年生	79	2		
3年生	60	2		
4年生	84	3		
5年生	66	2		
6年生	65	2		
合計	418	13	6	34



令和7年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	69	2	7	32
2年生	63	2		
3年生	77	2		
4年生	60	2		
5年生	83	3		
6年生	67	2		
合計	419	13	7	32



令和8年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	51	2	7	30
2年生	66	2		
3年生	63	2		
4年生	75	2		
5年生	60	2		
6年生	81	3		
合計	396	13	7	30

【人吉西小学校】

令和6年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	32	1	4	22
2年生	40	1		
3年生	46	2		
4年生	40	2		
5年生	41	2		
6年生	46	2		
合計	245	10	4	22



令和7年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	32	1	4	22
2年生	32	1		
3年生	39	1		
4年生	44	2		
5年生	39	2		
6年生	40	2		
合計	226	9	4	22



令和8年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	33	1	4	20
2年生	31	1		
3年生	30	1		
4年生	35	1		
5年生	43	2		
6年生	37	1		
合計	209	7	4	20

【東間小学校】

令和6年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	47	2	5	28
2年生	49	2		
3年生	53	2		
4年生	48	2		
5年生	42	2		
6年生	61	2		
合計	300	12	5	28



令和7年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	39	1	6	28
2年生	46	2		
3年生	49	2		
4年生	52	2		
5年生	48	2		
6年生	42	2		
合計	276	11	6	28



令和8年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	32	1	4	23
2年生	39	1		
3年生	46	2		
4年生	48	2		
5年生	52	2		
6年生	47	2		
合計	264	10	4	23

【大畑小学校】

令和6年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	6	1	1	12
2年生	11	1		
3年生	8	1		
4年生	12	1		
5年生	9	1		
6年生	10	1		
合計	56	6	1	12



令和7年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	6	1	1	12
2年生	7	1		
3年生	13	1		
4年生	9	1		
5年生	12	1		
6年生	10	1		
合計	57	6	1	12



令和8年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	6	1	1	10
2年生	4	1		
3年生	6			
4年生	12	1		
5年生	8	1		
6年生	11	1		
合計	47	5	1	10

※2年生・3年生は複式学級（R8～）

【西瀬小学校】

令和6年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	23	1	2	15
2年生	27	1		
3年生	30	1		
4年生	16	1		
5年生	31	1		
6年生	33	1		
合計	160	6	2	15



令和7年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	26	1	2	14
2年生	22	1		
3年生	27	1		
4年生	29	1		
5年生	16	1		
6年生	34	1		
合計	154	6	2	14



令和8年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	18	1	2	13
2年生	26	1		
3年生	24	1		
4年生	27	1		
5年生	31	1		
6年生	16	1		
合計	142	6	2	13

【中原小学校】

令和6年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	51	2	5	26
2年生	51	2		
3年生	42	2		
4年生	57	2		
5年生	41	2		
6年生	52	2		
合計	294	12	5	26



令和7年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	39	2	4	22
2年生	52	2		
3年生	51	2		
4年生	41	2		
5年生	58	2		
6年生	41	2		
合計	282	12	4	22



令和8年5月1日現在

	児童数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	32	1	4	23
2年生	39	2		
3年生	53	2		
4年生	53	2		
5年生	41	2		
6年生	58	2		
合計	276	11	4	23

【第一中学校】

令和6年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	132	4	2	32
2年生	130	4		
3年生	115	3		
合計	377	11	2	32



令和7年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	125	4	4	32
2年生	130	4		
3年生	130	4		
合計	385	12	4	32



令和8年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	107	3	4	29
2年生	123	3		
3年生	129	4		
合計	359	10	4	29

【第二中学校】

令和6年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	130	4	5	31
2年生	137	4		
3年生	135	3		
合計	402	11	5	31



令和7年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	127	4	4	27
2年生	130	4		
3年生	136	4		
合計	393	12	4	27



令和8年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	110	3	4	27
2年生	126	3		
3年生	131	4		
合計	367	10	4	27

【第三中学校】

令和6年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	9	1	1	13
2年生	14	1		
3年生	6	1		
合計	29	3	1	13



令和7年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	9	1	1	12
2年生	9	1		
3年生	14	1		
合計	32	3	1	12



令和8年5月1日現在

	生徒数	通常学級数	特別支援学級数	教職員数
1年生	10	1	1	13
2年生	10	1		
3年生	9	1		
合計	29	3	1	13

<令和6年度>

小学生 1473人
中学生 808人



<令和8年度>

小学生 1334人 (△139人)
中学生 755人 (△53人)

※人吉市の現状（人口）から推計してみると・・・

R8.3.31 現在 人口

年齢	人数
0歳	130
1歳	141
2歳	145
3歳	173
4歳	154
5歳	190

【3年後は・・・】

<令和8年度>

小学生 1334人
中学生 755人



<令和11年度>

小学生 1116人 (△218人)
中学生 735人 (△20人)

【6年後は・・・】

<令和11年度>

小学生 1116人
中学生 735人



<令和14年度>

小学生 933人 (△183人)
中学生 599人 (△136人)

◎本市の出生数は年間で130人～140人程度で推移しています。

人吉市では、子育て支援や移住定住促進などの施策を進めておりますが、今後も少子化の進行により、就学前教育・保育施設の児童数減をはじめ、義務教育段階での児童生徒数の減少は、将来留まることがないと想定されます。

今から6年後には、小学生が約400人、中学生が約150人減少すると推察されます。小学校は全ての学校が全学年1クラスで複式学級も存在すると考えられます。

また、第一中学校と第二中学校も生徒数はそれぞれ300人程度となる可能性があります。

したがって、人吉市立学校の全てが適正規模校ではなく、小規模校に位置付けられる可能性が大きいといえます。

(その他) 令和8年度の委員会開催等スケジュール

令和8年度は最終年度となります。

今年度、検討委員会開催スケジュールは次のとおり予定しております。

なお、6月と7月に6校区で住民意見交換会（夜間）を開催し、地域の皆様の御意見等を頂戴する計画です。（別紙参照：必要に応じて秋に再度開催）

- ・第4回 令和8年5月8日（金）
- ・第5回 令和8年 7月
- ・第6回 令和8年 8月
- ・第7回 令和8年10月
- ・第8回 令和8年11月
- ・第9回 令和8年12月
- ・第10回 令和9年1月

※木曜日の午後または金曜日
に開催する予定です。



令和9年2月上旬 人吉市長へ答申書提出